

10/28 東京

大串副大臣の統一協会政策協定

大串正樹（アシタル副大臣）が統一協会と政策協定を結んでいたことが26日、発覚しました。本部を韓国に置いている統一協会＝勝共連合が、自民党議員との「政策協定」によって政策項目を実行させることになれば、日本の政治に対する内政干渉になる大問題です。ましてや、政務三役（大臣、副大臣、政務官）どもがこの政策を直接つかさどる立場にある政治家が政策協定を結び、見返りに統一協会の支援を受けているとすれば、政策がゆがめられる危険はいつそう重大で看過でき

ません。大串氏はデジタル庁幹事長が記者会見（9月ル）だけでなく消費者庁も担当しており、消費者保護行政をめぐり、統一協会との関係に関する協会との関係が問われる立場です。

大串氏の副大臣として

立場があります。

岸田文雄首相は、自民党議員と統一協会との政務三役全體に対する徹底調査も当然必要です。「実態把握することに努めます」（10月20日）と述べたが、24日には自民党議員と統一協会との政策協定の問題は、自民党の「自己申告による点検では明らかにされず、「朝日」の報道等によつて発覚してきたものであります。大串氏は「自民党の任命責任にも関わる問題であり、あいまいにするべき」と答弁を後退させています。岸田首相の

立場があります。
岸田文雄首相は、自民党議員と統一協会との政策協定の問題は、自民党の「自己申告による点検では明らかにされず、「朝日」の報道等によつて発覚してきたものであります。大串氏は「自民党の任命責任にも関わる問題であり、あいまいにするべき」と答弁を後退させていますが、茂木敏充さん。